

社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

【もくじ】

H30.11 現在

地域づくり			
NO	タイトル	法人名・施設名	ページ
1	「あおぞら市場～くるり～」の開催について（資源を活かした地域への展開）	社会福祉法人三蔵会 特別養護老人ホームおおむら園	2
2	地域課題解決に向けた社会福祉法人 恵仁会の取り組み	社会福祉法人恵仁会 特別養護老人ホーム鹿屋長寿園	4
3	社会福祉法人恵里会（けいりかい） 生き生きライフ健康セミナー事業	社会福祉法人恵里会 日置市特別養護老人ホーム青松園	6

社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

地域づくり			
「あおぞら市場～くるり～」の開催について（資源を活かした地域への展開）			
法人名	社会福祉法人 三蔵会	法人創立年	平成19年11月
所在地	〒895-1503 鹿児島県薩摩川内市祁答院町上手500番地7 TEL: 0996-55-1313		
法人理念・経営方針	法人理念 「幸せや健康というかけがえのない財産を、やさしさと思いやりでお守りします」	法人の実施事業	○経営施設数合計：2施設、5事業 ○経営施設・事業 地域密着型特別養護老人ホーム 小規模多機能ホーム デイサービスセンター 認知症対応型デイサービスセンター 広域型特別養護老人ホーム 短期入所生活介護 居宅介護支援事業所

活動取組の概要	実施施設の概要	○施設名：特別養護老人ホームおおむら園 ○施設種別（定員数）：地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 定員29名
	活動内容	○活動開始年：平成29年 ○活動の対象者：地域住民 ○活動の頻度・時間：月1回 10時00分～12時00分
	主な経費や財源、人員等	○今回の取組みに関わった職員数や職種名：事務職員3名

活動実施の背景、実施にいたった理由

当法人が所在する地域では、2年程前に個人商店が閉店し、それを機に地域住民が日用品を徒歩で買いに出かけられる店がなくなった。そのため、地域住民が日用品を買うためには車で5分以上かかる場所にしかないと、地域に住む高齢者は買い出しも手間のかかる状況となっていた。

そのような中、地域住民からも「手頃な買い物ができる場所があったら良い」などの声もあり、それを受けて地域住民の日用品（特に食材類）を手短かに買い出しができるように、法人敷地内に野菜など食材の販売所を開所することとなった。

取組みの内容

地域住民からは以下のようなニーズがあった。

- ・野菜類などの買い物ができるような場所が欲しい。
- ・認知症カフェ（毎週木曜日）に参加した時に買い出しができれば良い。

<実施日>

当法人は建物内で認知症カフェ（毎週木曜日）を実施しており、地域住民のニーズもあったので、実施曜日は木曜日と定めた。

<実施時間>

午前10時から正午までの2時間とした。

<実施場所>

認知症カフェの来客に見えるよう、正面玄関近くの駐車場にテントを配置した。

<事前準備>

- ・テント、品物を置くテーブルを購入。
- ・品物札（POP）などは自作した。
- ・品物（地域住民が持ち込まれる品数が未知数だったため、予め地元直売所などから購入準備した）

<費用>

計20,000円程度

<準備期間>

構想は昨年度末より計画されていたが、実施するには品物購入や事前準備など約1か月かかった。

<出品物>

品物は地域住民が自宅で作っている野菜類を出してもらえるよう、当法人で作成したチラシ配布を地区コミュニティ協議会に協力依頼し、地域住民に声かけを行った。

<当日対応>

市場の販売は法人事務職員が金銭管理も含めて対応した。

活動の効果と課題

<実施日及び時間、来客層>

初回開催は5月25日(木)10時~14時まで実施した。

来客数は20名以上あり、その多くが地域住民だった。また、来客の中には認知症カフェには参加されず、買い物にのみ来られた地域住民もあった。当初予定では10時~正午までの予定だったが、地域住民の持ち寄っていただいた品物が多かったこともあり、午後からも販売を継続し、施設面会者など地域住民以外にも購入していただくことができた。

<実施場所>

当初予定通り正面玄関隣の駐車場で実施した。予定していた通り、認知症カフェの来客が多く立ち寄っていただき購入されていた。しかし、数名の来客から「施設に車を乗り入れた際に見つけにくかった」との意見があり、次回からは実施場所の再検討の必要性を感じた。

<出品物持ち寄りの声かけ>

地区コミュニティ協議会と協力実施した結果、初回開催日当日にトマト(80袋)、筍(十数本)、いちご(20パック)、ねぎ(10袋)、びわ(20パック)など野菜から果物まで非常に多くの品物を持ち寄っていただくことができた。

<実施についての自己評価>

全体を通して、地域住民のニーズに応えられたのではないかと感じている。想像以上に地域住民が持ち込まれた野菜などの品数が多かったが、それでも4時間で完売したところを見ると、地域住民が野菜等の売店を求めているという事が分かった。

今後の展開

今回の取り組みでは「あおぞら市場~くるり~」などの野菜の販売所が地域住民に求められているという事が分かった。

今後は毎月1回最終木曜日の10時~正午までの2時間、この「あおぞら市場~くるり~」を実施し、さらに地域住民の要望に応えられるように地域住民や地区コミュニティ協議会などと協議しながら実施していく。



社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

地域づくり			
地域課題解決に向けた社会福祉法人 恵仁会の取り組み			
法人名	社会福祉法人 恵仁会	法人創立年	昭和 42 年 2 月 5 日
所在地	〒893-0024 住所鹿児島県鹿屋市下祓川町 1800 電話番号 0994-43-2546		
法人理念・経営方針	地域における社会福祉事業の担い手として責任のある立場を自覚し、安定した経営基盤を構築するとともに、提供するサービスの質の向上及び経営の透明性に努める。	法人の実施事業	○経営施設数合計 22 ○経営施設・事業 介護老人福祉施設・養護老人ホーム・通所介護・訪問介護・グループホーム

活動取り組みについて	実施施設の概要	○施設名：特別養護老人ホーム 鹿屋長寿園 ○施設種別（定員数）：指定介護老人福祉施設(定員 110 名)
	活動内容	○活動開始年：平成 27 年 10 月 7 日 ○活動の対象者：高隈地区 住民 ○活動の頻度・時間：毎週水曜日 14:00~16:00 約 2 時間
	主な経費や財源、人員等	○今回の取り組みに関わった職員数や職種名 年間 40 名、多職種、毎回施設営繕の運転手 ○取り組みを実施している施設の事業規模 110 床規模 ○法人全体の事業規模 職員数 409 名

活動実施の背景、実施にいたった理由

鹿屋市高隈地区は山間部に位置し、鹿屋市街地から車で約 30 分、高齢化率 50.8%の地区になります。地域を活性化するための高隈地区コミュニティ協議会があります。協議会が 65 歳以上の住民 758 名に対してアンケート調査を実施したところ、買い物の交通手段は、半数以上が自分で運転と回答しています。生鮮食品が買えるお店が近くにないと答える人が約 75%と多く、80%以上が鹿屋市中心地まで買い物に出かけることから、買い物のために車が手離せない状況にあることがわかりました。「高隈地区コミュニティ協議会」が地域住民との調整役となり、「社会福祉協議会」は私たちのコーディネーター役として、そして「社会福祉法人恵仁会」はドライブサロン事業の実働部隊として三者共同で「ドライブサロン事業」として事業が開始しました。

高隈地区ドライブサロン



取り組みの内容

ドライブサロンは平成 27 年 10 月より、毎週水曜日に実施。私達、恵仁会の役割は法人のバスを使用し、運転手と添乗員の 2 名を毎回派遣。

登録者：19 名

送迎：3 か所のポイントで待ち合わせ



<タイムスケジュール>

12:30 鹿屋長寿園出発
13:00 送迎ポイント着
13:40 ショッピングセンター到着
買い物
14:40 参加者送り
16:00 長寿園到着
(Lap3 時間 30 分)

費用については参加者の自己負担はありません。

法人にかかる経費として、バスのガソリン代やメンテナンス費用、職員の人件費で、一年を通じて行うため50万円ほどが法人負担となっています。

活動の効果と課題

ドライブサロンの効果を知るために、ドライブサロンが始まる前の状況やドライブサロンの感想、体調や精神的な変化について聞き取りを行いました。アンケート結果によると、すべての方がドライブサロンは楽しいと感じられており、買い物支援の頻度についても現在の週1回のペースがちょうど良いとの回答でした。

また買い物以外の楽しみを伺ったところ、「みんなに会えること。」「車内での話」が多数を占めていました。この結果から参加者の皆さんが地域で、顔を合わせ、話をする機会がとても少なくなっていた実情を知ることができました。

体調の変化については、14名中12名の方が「楽しみがあってうれしい」「元気がわいてくる。」「1週間があつという間」といった感想を書かれており、楽しみや人と会うことが定期的にある生活は、心も体も健康にしてくれるとわかりました。

(今後の課題)

- ・継続的な支援を行っていくための方策
- ・参加希望者が増えた場合の対応策
- ・利用者の身体状況が変わった場合(車いす等)の対応策
- ・この取り組みを他地域にどのように発信していくか
- ・賛同できる機関、団体を増やすための方策

今後の展開

恵仁会ではドライブサロンの実施範囲の拡大を検討しています。しかし、継続して行うべき事業であるために、人員確保が課題です。

そのために地域住民、ボランティア、他企業などの連携先を探していきたいと思えます。

同法人の花岡地区に関しても同様の課題があり、恵仁会独自事業のオレンジカフェにて、類似する取り組みをオレンジドライブとして実施することが決定しました。

鹿屋市には交通の便が悪いところがとても多く、車がないと生活が成り立ちません。

その一方で高齢者の自動車運転が問題にもなっています。運転以外にも元気な時には気づかなかったこと、認知症・病気により突然要介護状態になることなど、歳を重ねる過程で起こる様々な変化についてはできれば考えたくないことですが、老いは誰にでも訪れるものです。

老いることを悲観的にとらえずに、どうすれば住み慣れた地域で暮らし続けられるのか、私たち社会福祉法人が地域での生活を支援できるための真のニーズに対応することが求められています。

社会福祉法人の地域における公益的な活動事例

地域づくり			
社会福祉法人恵里会（けいりかい） 生き生きライフ健康セミナー事業			
法人名	社会福祉法人恵里会	法人創立年	平成 12 年 4 月
所在地	〒899-2203 鹿児島県日置市東市来町伊作田 7078-1		
法人理念・経営方針	利用者のプライバシーの確保と人権擁護に努めるとともに利用者の自立支援のため 心情やニーズを理解し尊重して安心・安全な日常生活が維持できるよう支援することを基本理念とする	法人の実施事業	<ul style="list-style-type: none"> ○経営施設数合計 5 か所 ○経営施設・事業 <ul style="list-style-type: none"> ケアハウス 1 特別養護老人ホーム 1（指定管理）（介護予防）短期入所生活介護 1（指定管理） 無床診療所 1 デイサービス 1 サービス付き高齢者向け住宅 1

活動取り組みについて	実施施設の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○施設名：日置市特別養護老人ホーム青松園 ○施設種別（定員数）：特別養護老人ホーム（入所 80、短期入所 12）
	活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ○活動開始年：平成 29 年 ○活動の対象者：自治会住民 ○活動の頻度・時間：要請に応じて開催、1 回約 2 時間
	主な経費や財源、人員等	<ul style="list-style-type: none"> ○今回の取り組みに関わった職員数や職種名 施設長 1、看護職 1、生活相談員 1、介護支援専門員 1、事務職 1 ○取り組みを実施している施設の事業規模 特別養護老人ホーム入所 80 床、短期入所 12 床（日置市の指定管理者制度により受託運営） ○主な経費は参加者全員の昼食（お弁当の提供）にかかる費用

活動実施の背景、実施にいたった理由

地元である日置市日吉町の地域事情は、人口減少、高齢化の進展、少子化など様々な問題を抱えている。医療・福祉の向上を主な目的として地域に根ざした活動を展開する「医療法人誠心会ゆのもと記念病院グループ」として、日々の事業活動を通じ地域住民の方々の声に耳を傾け個人の要望について聞き取りを行っている。その中で、地域の方々に社会福祉法人恵里会をより身近に感じていただくために、平成 29 年よりグループ法人である社会福祉法人佑心会とともに、「生き生きライフ健康セミナー事業」を行っている。

～医療法人誠心会ゆのもと記念病院グループ～

【理念】

日本一やさしい医療・福祉を目指して
誠心誠意ご奉仕いたします

取り組みの内容

医療法人誠心会ゆのもと記念病院グループの各事業を通じて、利用者様の様々な要望の一つ一つ具体的に伝えていく活動を行っているが、ある自治会長の高齢者より、定期的に高齢者が集う場があるのでそこで健康講演やレクリエーションをしてもらえたら、との声があり手始めに要望をいただいた自治会に出向いて地域の公民館でレ

クリエーションを行った。参加者からは好評を得、聞きつけた他の自治会からもすぐに声がかかった。

現在は、看護職の健康チェック、医師の認知症についての講話や健康講演、特別養護老人ホーム職員による脳の活性化のためのレクリエーションを行っている。

（スケジュール 例）	
9:30	健康チェック
10:00	健康講演
11:00	レクリエーション
12:00	昼食
13:00	閉会

平成 29 年度は依頼により 3 回実施。会場によりバラツキはあるものの 1 回 20～30 名が参加した。



また、昼食を共にする中で地域の再発見や新たな要望の聞き取りを行いながら次の事業展開に活かす取り組みを行っている。

まだまだ、道半ばであるがより多くの地域の方々と身近に寄り添いながらすすんでいけるよう努めている。



活動の効果と課題

「若い」をより身近な問題として具体的な形でとらえながら、地域の仲間とともに分かち合う場の提供ができた。「みんなで久しぶりに腹を抱えて笑ろたよ。」と楽しんでいただけたようだ。顔の見える関係の中で、お互いの健康状態や参加できなかった方々の話まで会話は及び、地域の情報を共有する場として活かしながら地域全体がとも

に助け合って生きるという「共生社会」が醸成できていると感じられる。

今後は地域ごとの参加者が増えていくことを願いながら、地域の声を生かした新たな取り組みも検討していくことが望まれていると感じる。職員もそれぞれの担当ごとに腕に磨きをかけようと努力しており、お互いの相乗効果が期待される。



今後の展開

さらに地域の方々の声をくみ取る体制を整え、一つ一つ答えをお返しできるよう職員がそれぞれの立場で同じ目的をもって進んでいかなくてはならない。

また、地域の高齢者のみならず、地域のみんながふれあいながら楽しみを感じる場の提供が数多くできるよう努めていきたい。